



子どもの権利条約とこども基本法について



子どもの権利条約とは？

18歳未満の子どもを「権利の主体」と位置づけ、全ての子どもの権利を保障するための国際的な条約です。日本は1994年4月22日にこの条約に批准しました。今では、世界の196の国と地域がこの条約に批准していて、世界で最も広く受け入れられている人権条約になっています。



「子どもの権利条約」は、世界中のこどもたちが幸せに、元気に、安心してくらせるようにするための約束です。いろんな国と一緒に話し合っ決めました。日本も1994年4月22日この約束を守ることにしました。



子どもの権利を包括的に明示したこの条文は、前文と本文54条からなり、子どもの生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利などに関わるさまざまな権利を具体的に定めています。

子どもの権利条約の基本的な考え方は、次の4つで表されています。

子どもの権利条約の「4つの原則」

差別の禁止
さべつのないこと
(差別のないこと)



子どもの最善の利益
こどもにとってもっともよいこと
(子どもにとって最もよいこと)



生命、生存及び発達に
対する権利
いのちをまもられせいちょうできること
(命を守られ成長できること)



子どもの意見の尊重
いけんをひょうめいしさんかできること
(意見を表明し参加できること)



こどもには大きくわけて4つの権利（大切にされること、してもいいこと）があります。それは「差別のないこと」「こどもにとって最もよいこと」「命を守られ成長できること」「意見を表明し参加できること」です。



こども基本法とは？

2022年6月に成立し、2023年4月に施行されました。

すべてのこどもが幸せな生活を送ることができる社会を目指して、その基本的な考え方ははっきりとさせ、国や都道府県、市区町村など社会全体で、こどもに関する取組「こども施策」を進めるためにつくられました。これから国や都道府県、市区町村は、このこども基本法の内容に沿って、こどもや若者に関する取組を進めていきます。



日本のこどもたちが幸せに暮らせるように、国や大人がみんなで協力して、こどもたちのことを一番に考えようという法律です。



こども基本法には、4つの基本理念と6つの基本方針が定められています。



基本理念とは「なぜそれをするのか」「どんなことを大切にしたいのか」という、一番大切な気持ちや考えのこと、6つの基本方針とは、こどもたちが安心して健やかに育つために一番大切な考え方です。



子ども基本法「4つの基本理念」

差別の禁止

どんな子も、生まれた場所や体のこと、好きなことで差別されません。

生命、生存及び発達に対する権利

こどもたちが安心して暮らせるように、いじめや虐待から守ったり必要な時に助けてくれます。

子どもの意見の尊重

こどもたちが自分の意見を言えるように、色々な機会をつくってくれます。

子どもの最善の利益

その子にとってもっともよいことを最優先に考えます。



子ども基本法「6つの基本方針」

(こども施策※が大切にしている考え方)

- ①どんな子どもも大切にされ、人として尊重されること
- ②安心して生活でき、愛情を受けて育つことができること
- ③自分に関わることは、自分で意見を言えること
- ④年齢や成長に合わせて、一番よいことが優先されること
- ⑤子育ては家庭を基本に、みんなで助け合うこと
- ⑥子どもたちが楽しく幸せな家庭や社会をつくること



こども施策とは？

- ・大人になるまでの心や身体をサポートをすること
例えば・・・居場所づくり、いじめ対策など
- ・子育てをする人たちへのサポートをすること
例えば・・・働きながら子育てしやすい環境づくり、相談窓口の設置など



こどもって何歳まで？

・こども基本法では、18歳や20歳といった年齢で必要なサポートがなくならないよう、心と身体の成長の段階にある人を「こども」としています。こどもや若者のみなさんのそれぞれの状況に応じて社会で幸せに暮らしていけるよう、支えていきます。





こどもの権利条約やこども基本法について理解できましたか？
つぎのクイズに答えて理解できたか確認してみましょう！





子どもの権利クイズ



クイズ1 こども基本法でこどもは何歳まで？

- ① 16歳まで
- ② 18歳まで
- ③ 20歳まで
- ④ 心身の発達過程にある者





クイズ1 こたえ④

こたえは④の心身の発達過程にある者

子どもの権利条約では、子ども＝18歳未満と定義しています。

こども基本法では、18歳や20歳といった年齢で必要なサポートが受けられなくならないよう、心と体の成長段階にある人を「こども」としています。

クイズ2 誰の権利が大切だろう？

- ① 自分の権利
- ② 友達の権利
- ③ どちらも





クイズ2 こたえ③

こたえは③のどちらも。子どもはみんな同じ権利を持っています。
おたがいに守りたい権利がぶつかり合うことがあったら、お互いの
守りたい権利を尊重しながらどんな解決方法があるか一緒に話し
合って考えよう。

クイズ3 こどもの施策に対して子ども が意見を言うことはできる？

- ① できない（大人が決める）
- ② できる





クイズ3 こたえ②

こたえは②のできる。

子どもの意見の尊重は、子どもの権利条約の4つの原則の一つです。

クイズ4 子どもの権利は宿題をやらなかったり
約束を守らなかったりすると取り上げられる？

- ① はい
- ② いいえ





クイズ4 こたえ②

こたえは②のいいえ。

子どもの権利を含めて人権はすべての人が生まれながらに無条件に持っているもの。もちろんやるべきことや守るべき約束はあるけれど、「子どもの権利」はそれらと引き換えに与えられたり取られたりするものではない。



クイズ5 子どもが言うことを聞かないときや悪いことをした時も、大人はたたいたりぶったりしてはいけない。

- ① はい
- ② いいえ





クイズ5 こたえ①

こたえは①のはい。

子どもの権利条約では、どんな理由でも子どもが暴力をふるわれたり、不当なあつかいを受けることがあってはならないと定めています。

暴力で子どもにいたい思いをさせたり、言葉で心を傷つけるようなことは許されません。



子どもの権利条約やこども基本法について、理解できましたか？
理解できたら、アンケートの回答をお願いします。

アンケートの回答はこちらからお願いします。

